

Economic Indicators

発表日: 2019 年 1 月 23 日(水)

貿易統計(2018 年 12 月)

～実質輸出は持ち直し鈍く、米中貿易戦争の影響がちらつく～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 伊藤 佑隼(Tel: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
				輸出金額	輸入金額		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア
		原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17年	3月	6,035	779	11.9	16.0	7.3	1.9	4.2	8.7	4.7	11.8	4.3	7.4
	4月	4,783	▲ 11	7.5	15.2	3.0	1.0	4.4	5.2	5.7	8.2	5.9	7.1
	5月	▲ 2,044	1,542	14.9	17.8	6.7	8.1	16.4	6.1	6.8	3.2	4.7	10.0
	6月	4,332	512	9.7	15.7	4.8	4.7	7.8	5.7	5.1	10.8	11.4	4.9
	7月	4,066	3,169	13.4	16.5	4.0	2.7	2.0	4.4	4.0	2.7	5.3	8.1
	8月	968	4,105	18.1	15.5	10.9	16.5	5.0	11.1	4.0	1.3	5.9	5.4
	9月	6,538	2,596	14.1	12.3	4.2	5.6	1.7	8.9	0.3	10.2	4.3	0.1
	10月	2,786	4,109	14.0	19.0	4.1	▲ 0.5	3.6	8.4	5.5	▲ 0.9	10.8	7.2
	11月	1,052	3,566	16.2	17.3	5.7	4.9	▲ 1.1	10.0	4.0	6.5	▲ 2.4	9.5
	12月	3,562	158	9.4	15.0	4.6	0.8	2.4	5.2	7.0	4.9	3.0	11.0
18年	1月	▲ 9,483	4,509	12.3	7.8	10.8	4.7	12.6	13.8	3.3	7.2	3.9	1.8
	2月	▲ 1	▲ 2,661	1.8	16.6	▲ 0.8	6.1	1.5	▲ 5.9	13.8	5.9	1.8	26.9
	3月	7,933	555	2.1	▲ 0.5	3.6	6.7	▲ 5.8	5.9	▲ 4.2	3.0	4.7	▲ 7.3
	4月	6,208	4,626	7.8	6.0	7.2	8.1	6.3	3.6	2.1	2.1	▲ 3.5	2.6
	5月	▲ 5,833	▲ 2,952	8.1	14.1	6.4	9.9	▲ 2.9	6.0	6.6	6.0	0.4	7.0
	6月	7,184	607	6.7	2.6	3.2	▲ 0.3	1.1	3.6	▲ 4.5	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.3
	7月	▲ 2,350	▲ 568	3.9	14.7	0.9	▲ 4.8	1.1	3.3	4.0	5.6	9.7	2.5
	8月	▲ 4,488	▲ 2,428	6.6	15.5	1.1	3.3	4.8	0.4	4.5	8.5	1.2	3.4
	9月	1,265	▲ 2,220	▲ 1.3	7.1	▲ 4.9	▲ 3.0	▲ 4.8	▲ 4.6	▲ 2.7	▲ 7.8	▲ 8.3	▲ 1.8
	10月	▲ 4,539	▲ 3,062	8.2	20.0	3.8	10.2	6.9	1.3	10.3	19.9	2.5	12.4
	11月	▲ 7,377	▲ 4,807	0.1	12.5	▲ 1.9	1.8	6.3	▲ 4.5	4.2	▲ 2.6	9.0	3.4
	12月	▲ 553	▲ 1,836	▲ 3.8	1.9	▲ 5.8	3.9	5.7	▲ 10.3	▲ 2.2	11.5	▲ 4.0	▲ 2.4

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は赤字幅を縮小

12月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲553億円の赤字(コンセンサス: ▲353億円、レンジ: ▲677～▲1,797億円)とコンセンサスを下回った。

輸出金額については、前年比▲3.8%(コンセンサス: ▲1.9%、レンジ: ▲6.5%～▲0.1%)とコンセンサスを下回る結果となった。輸出価格(前年比+2.0%)が増加に寄与したものの、輸出数量(同▲5.7%)の落ち込みが大きかったことから、3ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。一方、輸入金額については同+1.9%(コンセンサス: +4.0%、レンジ: ▲2.3%～+13.0%)と増加となった。輸入については、数量(同▲2.2%)の減少を価格(同+4.1)の増加がカバーし、9ヶ月連続で前年比プラスとなっている。

季節調整値では、輸出金額（前月比▲1.3%）、輸入金額（同▲5.3%）ともに前月比マイナスとなったが、輸入の減少が輸出より大きかったため、貿易収支は▲1,836億円と前月から赤字幅を縮小させている。原油価格の低下を背景に価格面からの押し上げ圧力が弱まる中で、輸入の伸びは鈍化しており、貿易収支の悪化に歯止めがかかった格好だ。ただ、輸出が力強さを欠いた動きを続ける中で、貿易収支がこの先一段と改善していくシナリオは期待しにくい。

○持ち直しの動きは鈍く

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比+1.6%（11月：同▲2.7%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と前月から増加した。10-12月期でみても前期比+0.9%と増加しているものの、自然災害によって押し下げられていた7-9月期の減少（前期比▲1.6%）を取り戻すには至っておらず、持ち直しの動きは鈍い。

実質輸出を財別にみると、化学製品（前月比+6.0%）、輸送用機器（同+2.6%）、その他（+5.3%）が前月からプラスとなり、輸出全体の増加に寄与した。輸送用機器については欧州（同+6.7%）の増加が目立つが、均せば18年以降緩やかな減少基調で推移している。この先も英国のEU離脱（BREXIT）を巡る懸念の高まりが欧州の自動車販売の重石になると見られ、欧州向けの輸送用機器の動向は楽観視出来ない。

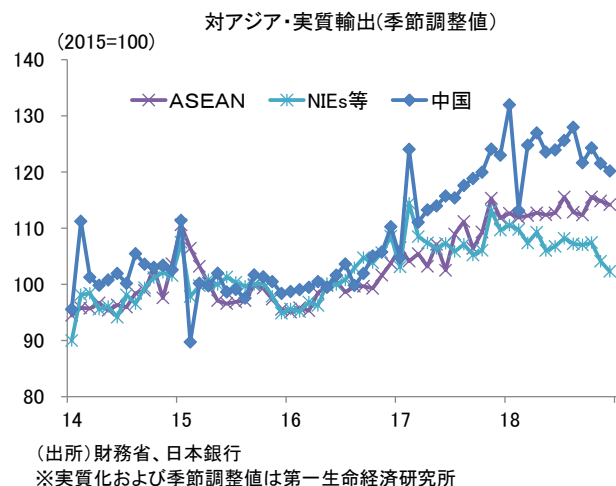
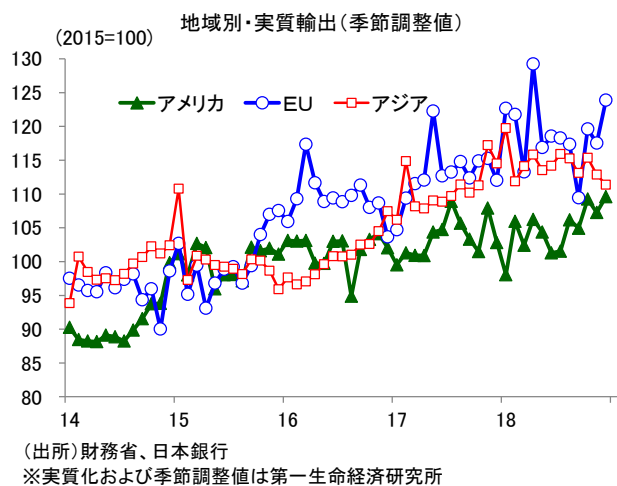
以前から懸念事項として挙げているアジア向けの一般機械については今月で4ヶ月連続の前月比マイナスとなっており、10-12月期でみると前期比▲6.6%と大きく失速している。とりわけ中国向けの減少が目立ち10-12月期では同▲12.0%と2桁台の落ち込みとなっている。中国経済の成長が鈍化していることに加えて米中貿易戦争による設備投資意欲の減退などが下押し圧力となり、大きな落ち込みになったとみられる。米中貿易戦争が単なる貿易戦争ではなく、米中による覇権争いの様相を呈している中で、中長期的に日本の輸出の下振れリスクになる可能性がある。

○下振れリスクには一段の注意を

以上のように、12月の輸出は前月から増加となったが、7-9月期からの持ち直しは鈍い。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は、雇用情勢が改善基調で推移していることや賃金が緩やかな上昇傾向で推移しており、個人消費がこの先も底堅さを維持することが見込まれ、引き続き堅調に推移するであろう。欧州経済については、昨年の成長ペースからは減速するものの、雇用・所得環境の改善が下支えとなり、底堅く推移するとみている。ただ、英国のEUからの離脱を巡る懸念が強まる中で、「合意なき離脱」が現実化した場合、欧州経済だけでなく世界経済にも影響が及ぶと予想され、日本の輸出が大きく停滞する可能性があることには注意が必要だ。中国経済については足元で減速感が見られるが、政府による景気刺激策が維持可能な成長ペースへのソフトランディングを下支えすると見ている。

このように、世界経済は米国をけん引役として緩やかな拡大基調を維持すると見ており、輸出も世界経済の拡大基調に足並みを揃える形で推移するとみているが、米中貿易戦争を始めとした下振れリスクが強まっており、今後の動向はより慎重にみておいたほうが良いだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

